

2026年8月24日

学修時間・学修実態及び 授業評価に関する報告書

2026年春学期

清泉大学 短期大学部
IR室

目的

- 清泉大学 短期大学部 こども学科 の2026年度春学期
授業評価アンケートを分析する.
- 科目分類・授業形態・配当年次別に分析する
 - 科目分類 : 教養教育科目 / 専門教育科目
 - 授業形態別 : (A群)講義系科目 / (B群)演習系科目 / (C群)保育者論科目
 - 配当年次 : 1年次 / 2年次 /1・2年次
- 本学の教学マネジメント体制における, 教育課程の編成に関する全学的な方針の検討への基礎データとして活用する.
- 今年度より,「授業形態別」区分は上記A～C群の3系統のグルーピングに変更したため, 経年比較は行わない.

調査概要

■ 調査時期

- ・ 2026年7月

■ 調査対象

- ・ 清泉大学 短期大学部生 こども学科 を対象.
- ・ 分析対象は, 2026年度春学期に開講した科目のうち63科目(※).
総回答数は1,373件.

表1 学年別・学科別・授業形態別の分析科目数

学科	配当年次	A群:講義系	B群:演習系	C群:保育者論	合計
教養教育科目	1・2年次科目	3	0	0	3
	1年次科目	3	2	0	5
専門教育科目	1年次科目	8	17	10	35
	2年次科目	7	13	0	20
総計					63

(※)アンケート回答があった科目のみ掲載（実際の開講科目数とは異なる）

調査項目および分析の枠組み

本報告では、授業評価アンケートの設問を分析目的に応じて4つの調査項目に整理した。

I「学修量」ではQ1, II「授業群別(A群・B群)・学修成果目標別の授業評価」ではQ2～Q5・Q7～Q10, III「保育者論(C群)の教育成果」ではQ1～Q5・Q7～Q15, IV「総合的な授業満足度」ではQ6を用いて分析した。Q1は授業外学修時間を30分刻みの5件法で、その他の設問は「そう思わない」から「そう思う」までの5件法で回答を求めた。

調査項目	分析対象設問	主な内容	回答方法
I 学修量(A群・B群・C群)	Q1	… 授業に関連した学修時間	「0分」～「2時間以上」の5件法
II 授業群別・学修成果目標別の授業評価(A群・B群)	Q2～Q5, Q7 Q8～Q10	… 学修経験・成果および 授業運営・実施	「そう思わない」～「そう思う」の5件法
III 保育者論の教育成果(C群)	Q2～Q5, Q7 Q8～Q10, Q15 ----- Q11～Q14	… 学修経験・成果および 授業運営・実施 … 保育者論の学修成果	「そう思わない」～「そう思う」の5件法
IV 総合的な授業満足度 (A群・B群・C群)	Q6	… 授業全体の満足度	「そう思わない」～「そう思う」の5件法

調査項目 I 学修量の調査

調査項目Ⅰ 学修量 記述統計

- こども学科全体における学修時間の平均値は、2.65(推定49.6分)。
- 教養教育科目では、1年次配当科目の学修時間はおよそ30分未満、同1・2年次配当科目でおよそ40分程度の学修時間、専門教育科目でおよそ1時間未満である。
- 標準偏差が1.08ポイントであり、学修習慣の個人差が生じている可能性がある。
- 教養教育科目と比較して、専門教育科目の学修時間が高い傾向にある。学年別の比較では、1年生ではA群の学修時間が高いのに対し、2年生ではB群の学修時間が高い傾向となった。

表2 学年・授業形態別 授業に関連した学修時間

科目	配当年次	A群:講義系科目		B群:演習系科目		C群:保育者論科目		全体	
		平均(σ)	科目数	平均(σ)	科目数	平均(σ)	科目数	平均(σ)	科目数
教養教育科目	1・2年	3.00 (1.15)	3					3.00 (1.15)	3
	1年	1.76 (0.66)	3	1.53 (0.50)	2			1.71 (0.63)	5
	教養教育科目	2.25 (1.08)	6	1.53 (0.50)	2			2.14 (1.04)	8
専門教育科目	1年	2.71 (1.07)	8	2.52 (1.04)	17	2.25 (1.11)	10	2.60 (1.07)	35
	2年	2.74 (1.00)	7	2.93 (1.07)	13			2.86 (1.04)	20
	専門教育科目	2.72 (1.05)	15	2.71 (1.07)	30	2.25 (1.11)	10	2.70 (1.07)	55
	学科全体	2.66 (1.06)	21	2.68 (1.08)	32	2.25 (1.11)	10	2.65 (1.08)	63

調査項目Ⅰ 学修量 図表

表3 学年・授業形態別 授業に関連した学修時間の推計値(分換算)

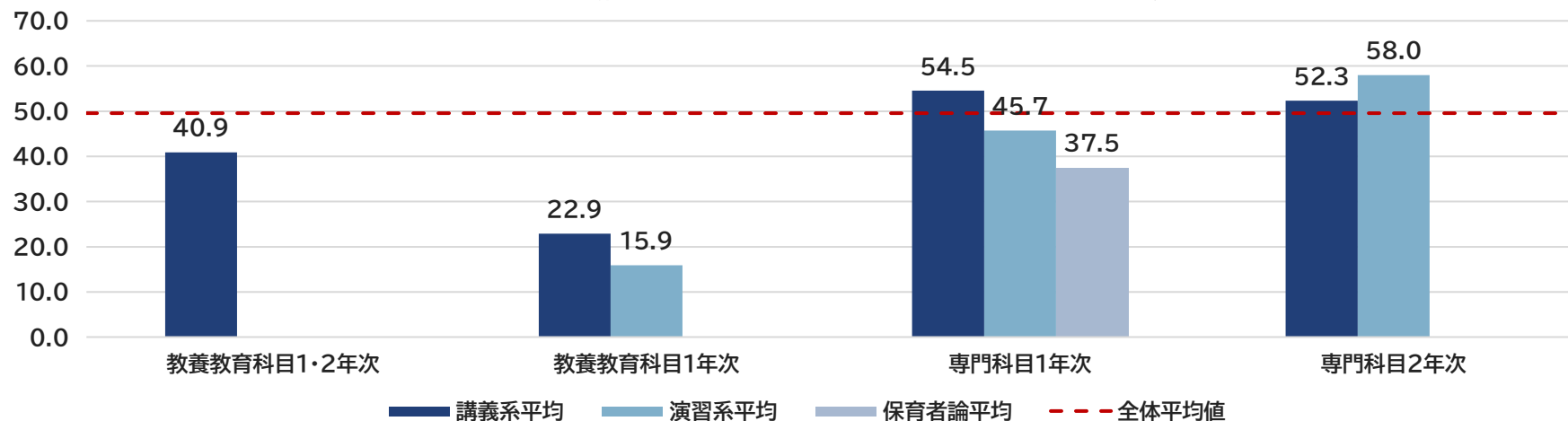
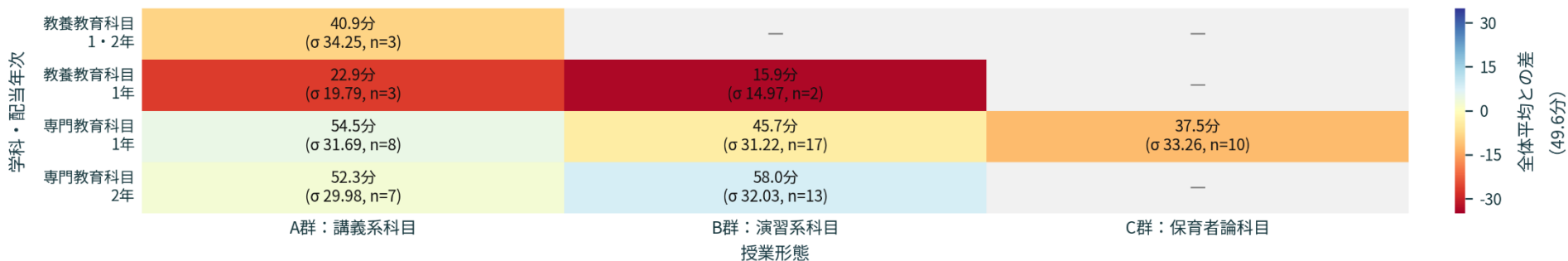


表4 学年・授業形態別 授業に関連した学修時間の比較(分換算)



調査項目Ⅱ 授業形態別・学修成果目標別の授業評価

調査項目Ⅱ-① 教養教育科目 記述統計

- 教養教育科目全体の評価は、各項目で4.62～4.84と高い水準にある。
- 最も高いのは「授業環境」4.84、次いで「授業計画」4.83であり、授業を受けるための環境および授業の計画・運営は、学生から総じて高く評価されている。一方最も低かったのは「知識理解」の4.62であった。
- 授業満足は4.77、学修成果は4.71であり、学生は授業全体および学びの成果を概ね肯定的に受け止めている。
- 学修成果目標の項目別では、「3. 豊かな人間性」科目群が相対的に低い値となった。とりわけ、「興味関心」と「目的理解」が低い結果となった。（次頁ヒートマップ参照）

表5 教養教育科目における学修成果目標別の授業評価結果

学習成果目標	科目数	学修量		学修経験・成果					授業設計		
		学習時間	授業姿勢	興味関心	目的理解	知識理解	授業満足	学修成果	授業計画	授業環境	講義設計
1知識・教養	5	2.2	4.66	4.67	4.67	4.63	4.73	4.69	4.77	4.78	4.73
2視野の広さ	2	2.8	4.71	4.83	4.81	4.63	4.83	4.71	4.86	4.86	4.68
3豊かな人間性	3	1.7	4.62	4.56	4.57	4.63	4.66	4.67	4.72	4.73	4.76
4コミュニケーション能力	3	1.7	4.90	4.81	4.67	4.63	4.84	4.75	4.93	4.93	4.77
5健康・体力	3	1.7	4.90	4.81	4.67	4.63	4.84	4.75	4.93	4.93	4.77
全体	16	2.0	4.75	4.72	4.67	4.62	4.77	4.71	4.83	4.84	4.74

調査項目Ⅱ-① 教養教育科目 図表

表6 教養教育科目における学修成果目標別の学修時間

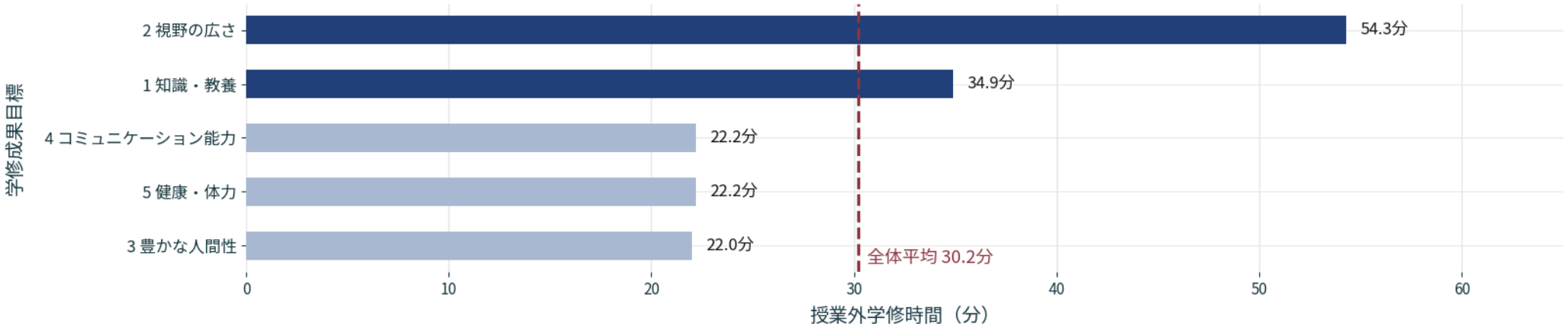
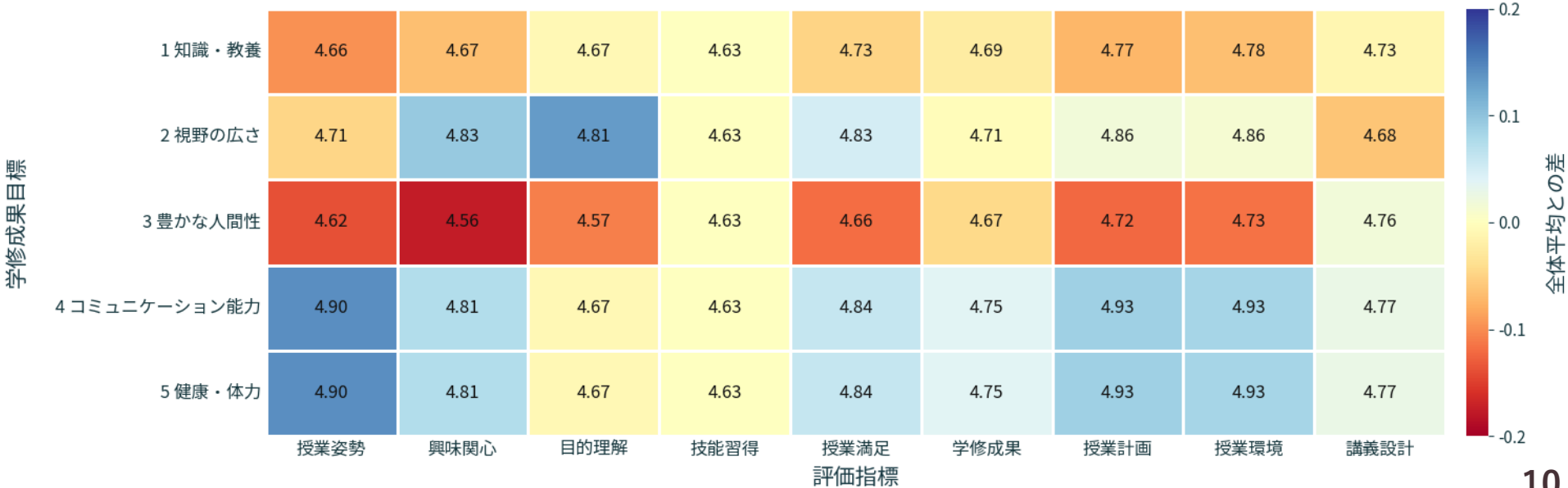


表7 教養教育科目における学修成果目標別の授業評価結果



調査項目Ⅱ-② 専門教育科目(A群:講義系) 記述統計

- 「学修経験・成果」の平均値では, 全体的に「目的理解」が最も高く, 講義系科目のねらいをよく理解しているといえる.
- 一方, 学修成果目標別では, 「保育の原理・目的の理解」は他に比べて, 学生の「学修経験・成果」の自己評価が全体的にやや低い傾向にあった. (次頁ヒートマップ参照).

表8 専門教育科目(A群:講義系)における学修成果目標別の授業評価結果

DPとの関係	学習成果目標	科目数	学修量		学修経験・成果					授業運営		
			学修時間	授業姿勢	興味関心	目的理解	知識理解	授業満足	学修成果	講義計画	授業環境	講義設計
DP①	Ⅱa 保育の基礎的教養(現代的教養・社会的教養・倫理観)の習得	3	2.51	4.55	4.66	4.71	4.64	4.75	4.70	4.76	4.76	4.76
	Ⅱc 保育の原理・目的の理解	5	3.07	4.55	4.54	4.60	4.56	4.56	4.57	4.62	4.57	4.53
	Ⅱb/d 保育及び支援の対象の理解	8	2.53	4.61	4.67	4.71	4.62	4.69	4.66	4.69	4.64	4.68
DP②	Ⅱe 保育内容や保育方法、具体的援助の方法の理解	8	2.73	4.62	4.64	4.71	4.64	4.64	4.68	4.67	4.58	4.60
	Ⅱf 保育に関する基礎的技能の獲得	1	3.79	4.68	4.68	4.75	4.68	4.54	4.63	4.54	4.40	4.35
	Ⅱg a～eに基づく保育の総合的実践力の基礎の獲得	3	2.96	4.66	4.62	4.69	4.67	4.60	4.67	4.71	4.58	4.54
DP③	Ⅲ 保育実践の思考力や課題解決能力、行動力の基礎の修得	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅳ 保育実践の表現力・創造力・感性の基礎の修得	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅴ 保育実践の主体性や自己学習能力の基礎の修得	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅵa 保育者の体験力の基礎の修得	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅵb 保育者の人間関係力、他者との協働性の基礎の修得	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	全体	28	2.93	4.61	4.64	4.70	4.63	4.63	4.65	4.66	4.59	4.58

調査項目Ⅱ-② 専門教育科目(A群:講義系) 図表

表9 専門教育科目(A群:講義系)における学修成果目標別の学修時間

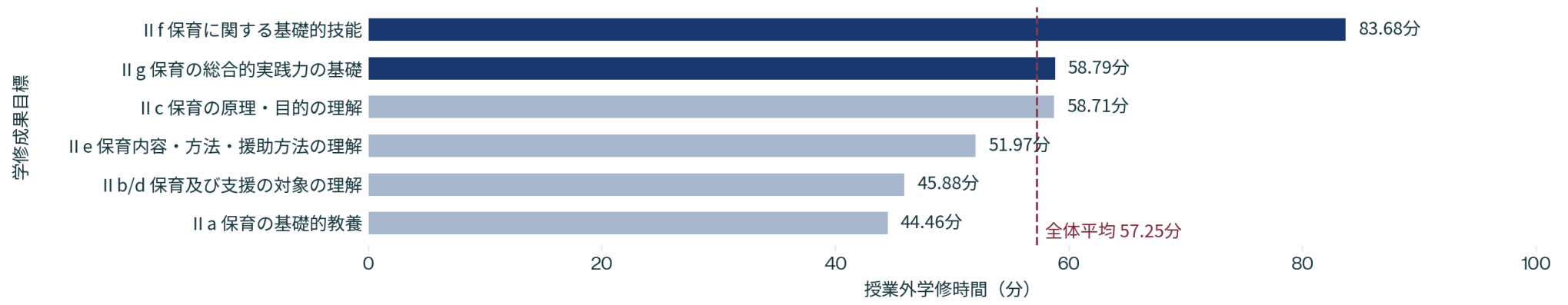
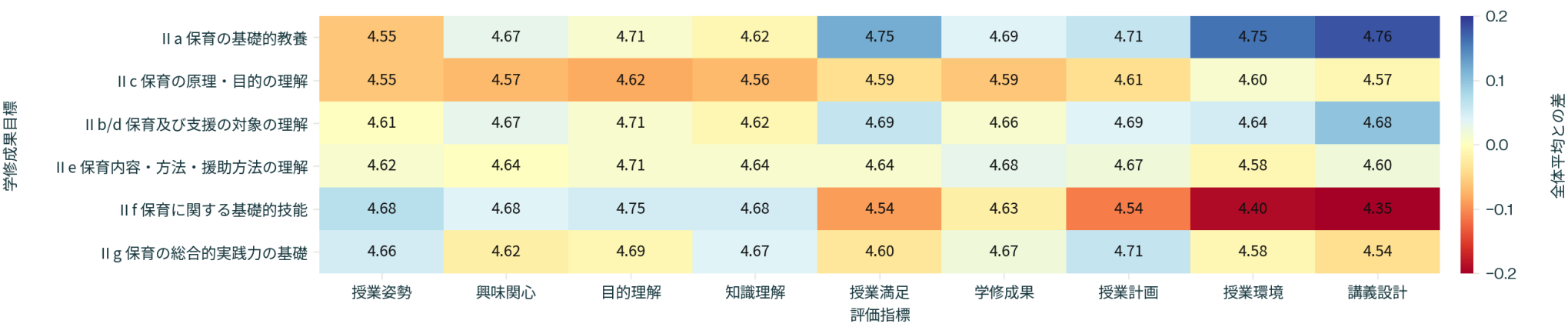


表10 専門教育科目(A群:講義系)における学修成果目標別の授業評価結果



調査項目Ⅱ-③ 専門教育科目(B群:演習系) 記述統計

- 全体的に4.7台を中心とした高い評価となっている。特に「Ⅳ 表現力・創造力・感性の基礎」は、興味関心4.90, 授業満足4.89, 学修成果4.89, 授業計画4.92と、ほぼ全指標で演習系全体の平均を上回っている。
- 「興味関心」は学修成果目標によって、平均値の高低差が大きい。
- 「保育の基礎的教養」「保育の総合的実践力の基礎」は「成果の自己評価」・「授業運営」ともに演習系全体で相対的に下回る傾向となっている。

表11 専門教育科目(演習系)における学修成果目標別の授業評価結果

DPとの関係	学習成果目標	科目数	学修量		学修経験・成果					授業運営		
			学修時間	授業姿勢	興味関心	目的理解	技能修得	授業満足	学修成果	講義計画	授業環境	活動設計
DP①	Ⅱa 保育の基礎的教養(現代的教育・社会的教養・倫理観)の習得	3	2.89	4.69	4.63	4.76	4.56	4.72	4.75	4.74	4.74	4.74
	Ⅱc 保育の原理・目的の理解	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱb/d 保育及び支援の対象の理解	6	2.92	4.73	4.83	4.81	4.77	4.82	4.85	4.83	4.84	4.85
DP②	Ⅱe 保育内容や保育方法、具体的援助の方法の理解	10	2.58	4.70	4.77	4.80	4.78	4.83	4.83	4.84	4.80	4.83
	Ⅱf 保育に関する基礎的技能の獲得	15	2.76	4.77	4.74	4.77	4.70	4.73	4.75	4.76	4.72	4.73
	Ⅱg a～eに基づく保育の総合的実践力の基礎の獲得	7	2.96	4.62	4.60	4.75	4.68	4.74	4.72	4.73	4.71	4.70
	Ⅲ 保育実践の思考力や課題解決能力、行動力の基礎の修得	6	2.96	4.67	4.64	4.76	4.68	4.79	4.77	4.80	4.76	4.77
DP③	Ⅳ 保育実践の表現力・創造力・感性の基礎の修得	6	2.49	4.78	4.90	4.86	4.83	4.89	4.89	4.92	4.84	4.91
	Ⅴ 保育実践の主体性や自己学習能力の基礎の修得	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅵa 保育者の体験力の基礎の修得	4	2.02	4.69	4.77	4.80	4.76	4.79	4.83	4.83	4.80	4.84
	Ⅵb 保育者の人間関係力、他者との協働性の基礎の修得	4	1.80	4.76	4.77	4.80	4.70	4.82	4.81	4.87	4.74	4.82
全体		61	2.60	4.71	4.74	4.79	4.72	4.79	4.80	4.81	4.77	4.80

調査項目Ⅱ-③ 専門教育科目(B群:演習系) 図表

表12 専門教育科目(B群:演習系)における学修成果目標別の学修時間

学修成果目標

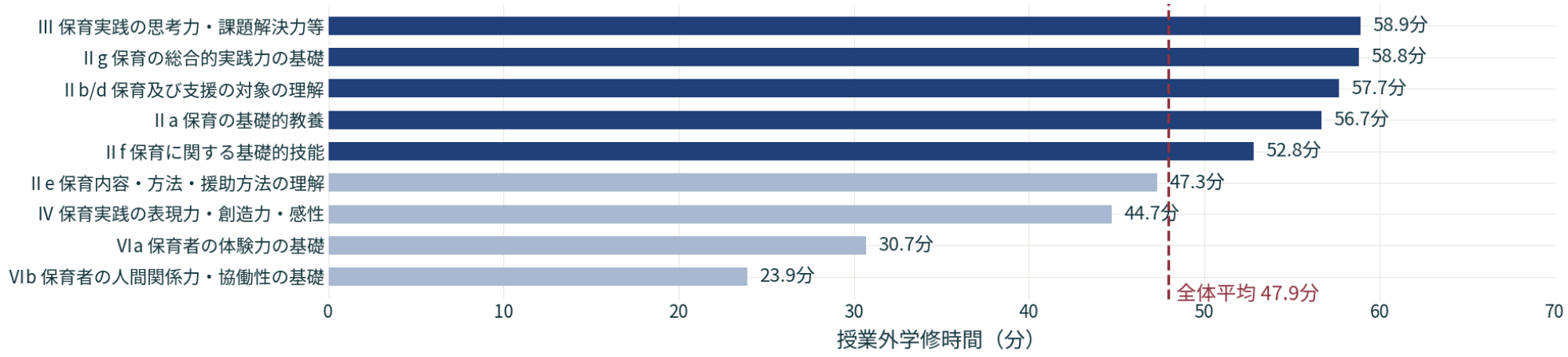
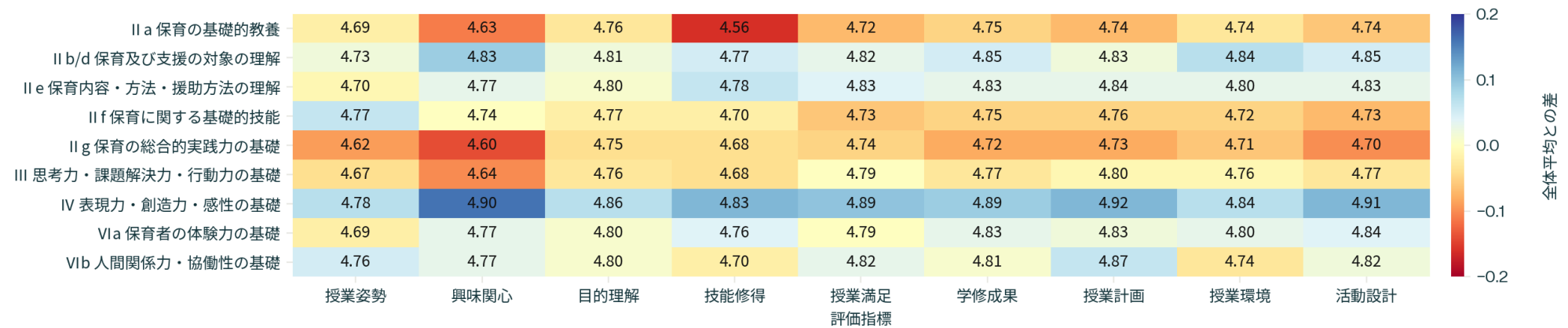


表13 専門教育科目(B群:演習系)における学修成果目標別の授業評価結果

学修成果目標



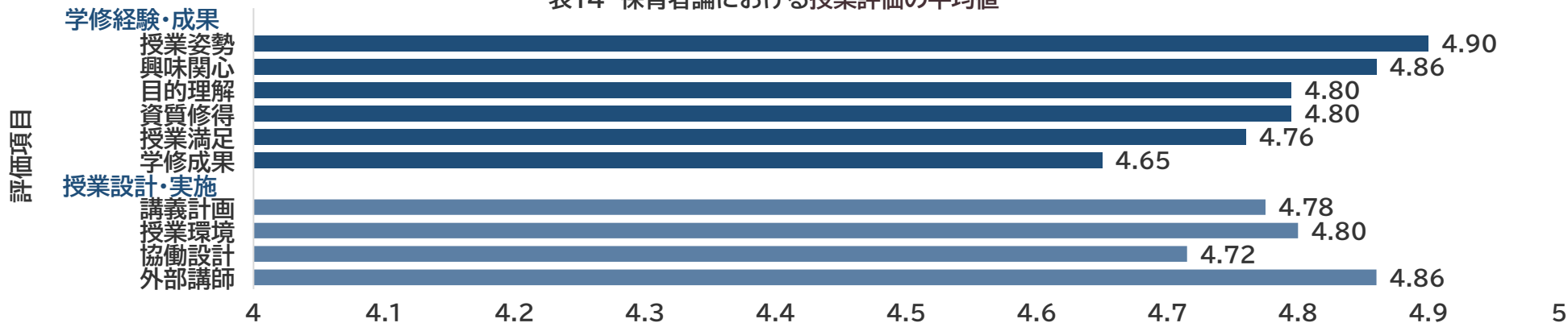
全体平均との差

調査項目Ⅲ 保育者論の授業評価

調査項目Ⅲ-① 授業評価・外部講師の有効性 記述統計

- 授業評価8項目はいずれも4.65以上であった。なお、総合満足度および外部講師の有効性も併せて8項目を図示した。全体として評価は高い。
- 授業姿勢(4.90)と興味関心(4.86)が特に高い。学生が意欲的に授業へ参加し、保育者論の内容に関心を持って学修していることがうかがえる
- 授業設計・実施についても高評価で、講義計画4.78, 授業環境4.80, 協働設計4.72となっている。授業の構成や学修環境, 協働的な活動は概ね適切であったと言える。
- 学修成果は4.65で8項目中もっとも低い。授業への姿勢や興味関心の高さと比べると, 学んだことを「成果として実感する」という点には, 伸びしろがある。

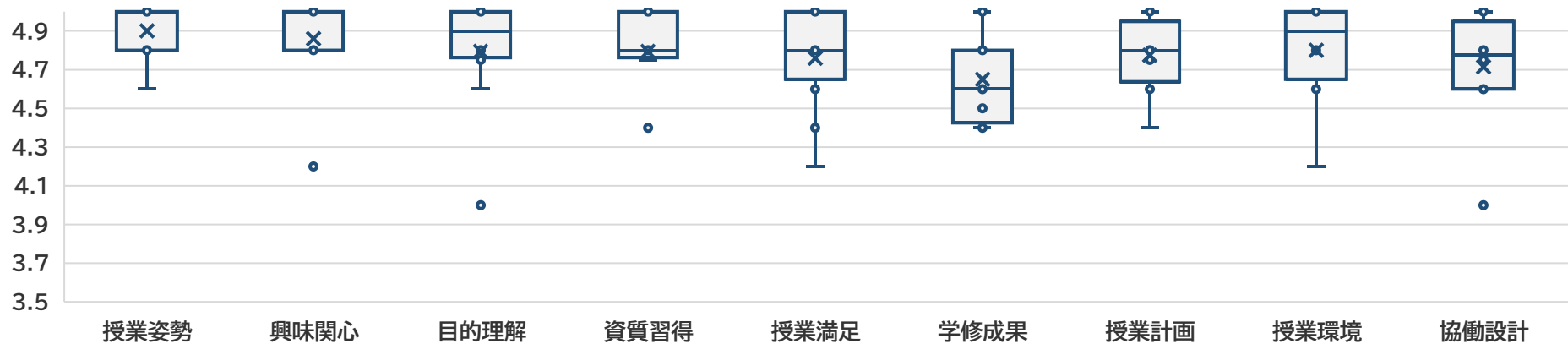
表14 保育者論における授業評価の平均値



調査項目Ⅲ-① 授業評価の10クラスの分布

- 「授業姿勢」は10クラスで最も安定しており、平均4.90, 中央値5.00で、クラス間のばらつきも小さい。授業への取り組みについては、クラス差が比較的少ないといえる。
- 「学修成果」は平均値4.65, 中央値が4.60であり、一部だけが低いというより、他項目に比べて全体的にやや低めである。授業への参加・関心は高い一方、学修成果の実感に十分つながっていない可能性がある。
- 「授業環境」、「授業満足」は評価の広がりが比較的大きく、「学修成果」「講義計画」についてもクラス間で一定のばらつきが確認できる。

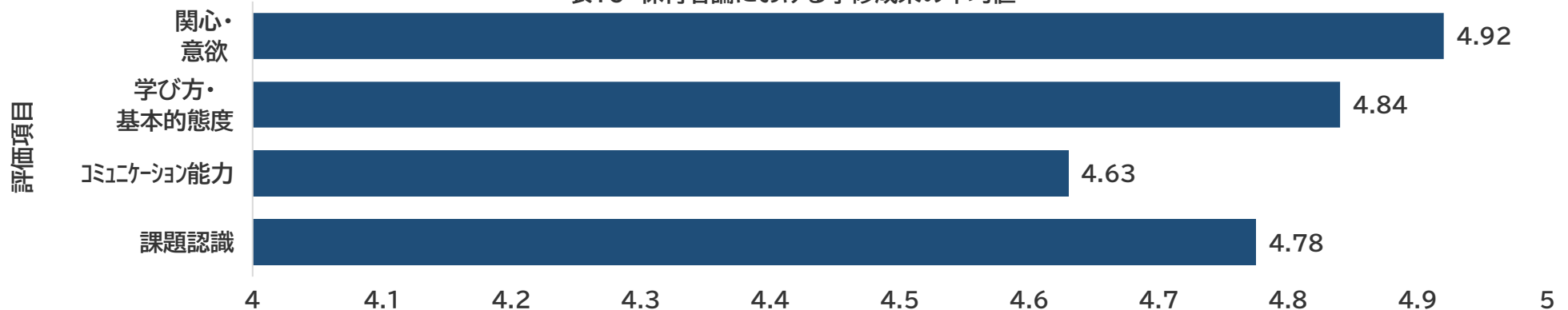
表15 保育者論における授業評価のクラス分布



調査項目Ⅲ-② 保育者論の学修成果(Q11-Q14) 記述統計

- 「関心・意欲」が4.92で最も高く、保育者論を通じて、こどもへの関心や保育専門職への意欲が高まったと学生が強く認識している。
- 「学び方・基本的態度」も4.84と高く、保育者として必要な学び方や基本的な態度の修得につながったと評価されている。
- 「コミュニケーション能力」は4.63で4項目中最も低い。絶対値としては高いものの、他の学修成果と比べると、能力向上の実感は相対的に弱い。
- 「課題認識」は4つの評価項目の中で高い水準であり、保育者論を通じて、自身の課題や今後の実習に向けた課題を明確にする機会となっていることがうかがえる。

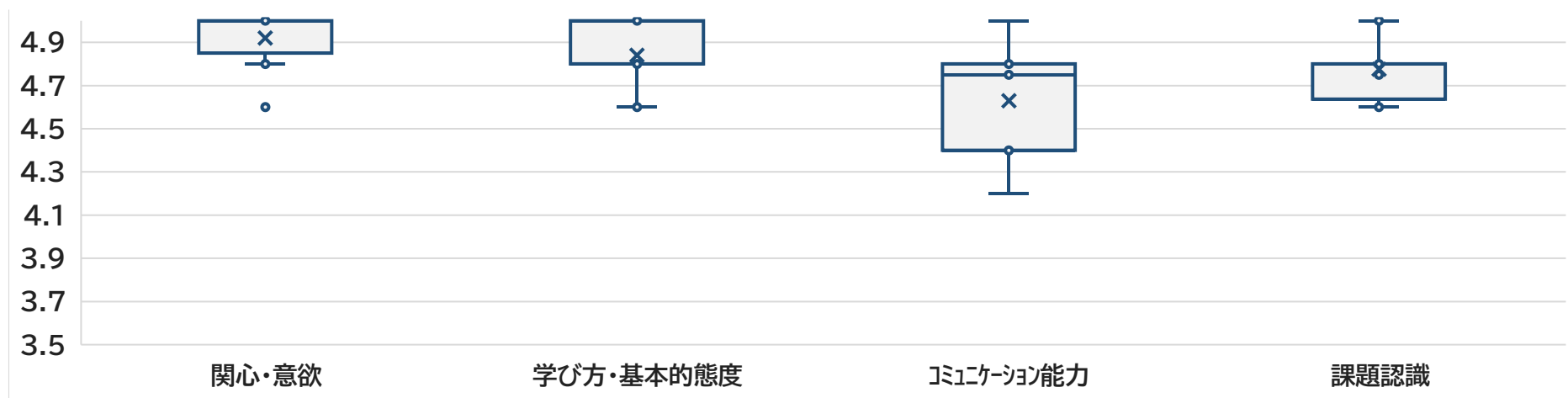
表16 保育者論における学修成果の平均値



調査項目Ⅲ-② 学修成果(Q11-Q14) の10クラスの分布

- 「関心・意欲」は高い水準にまとまっており、クラス間のばらつきも小さい。保育専門職への関心・意欲の高まりは、10クラスを通して比較的一貫している。
- 「学び方・基本的態度」も高い水準にあり、クラス間の差は比較的小さい。保育者として必要な学び方や基本的態度について、各クラス共通した成果がみられる
- 「コミュニケーション能力」は4項目の中で分布の広がりが最も大きい。クラスによって、能力向上の実感に差が生じていることがうかがえる。
- 「課題認識」は概ね高い水準にあるものの、自身の課題や実習に向けた課題の認識については、クラスによって実感の程度に多少の違いがある可能性がある。

表17 保育者論における学修成果のクラス分布



調査項目Ⅳ 総合的な授業満足度の調査

調査項目Ⅳ 総合的な授業満足度 記述統計

- こども学科全体における授業満足度の平均値は、4.74であった。
※参考昨年度同期の平均値4.72と比較してほぼ同水準値。
- 満足度のばらつきは0.4～0.5ポイントとなっており、授業満足度に若干の個人差が生じている。
- 相対的には、講義系科目が全体の授業満足度平均値を下回る結果となっている。
- 授業形態・学年別それぞれ、授業満足度の平均値は4.6以上となり、全体的に良好な結果となった。

表18 配当年次・授業形態別 授業満足度

学科	配当年次	講義系科目		演習系科目		保育者論科目		全体	
		平均 (σ)	科目数	平均 (σ)	科目数	平均 (σ)	科目数	平均 (σ)	科目数
教養教育科目	1・2年	4.83 (0.38)	3					4.81 (0.39)	3
	1年	4.60 (0.53)	3	4.82 (0.38)	2			4.65 (0.50)	5
	小計	4.73 (0.46)	6	4.78 (0.41)	2			4.74 (0.45)	8
専門教育科目	1年	4.65 (0.55)	8	4.76 (0.51)	17	4.75 (0.60)	10	4.71 (0.54)	35
	2年	4.68 (0.59)	7	4.85 (0.39)	13			4.78 (0.49)	20
	小計	4.66 (0.57)	15	4.80 (0.46)	30	4.75 (0.60)	10	4.74 (0.52)	55
	総計	4.68 (0.55)	21	4.80 (0.46)	32	4.75 (0.60)	10	4.74 (0.51)	63

調査項目Ⅳ 総合的な授業満足度 図表

表19 教養教育/専門教育科目・配当年次・授業形態 総合的な満足度比較

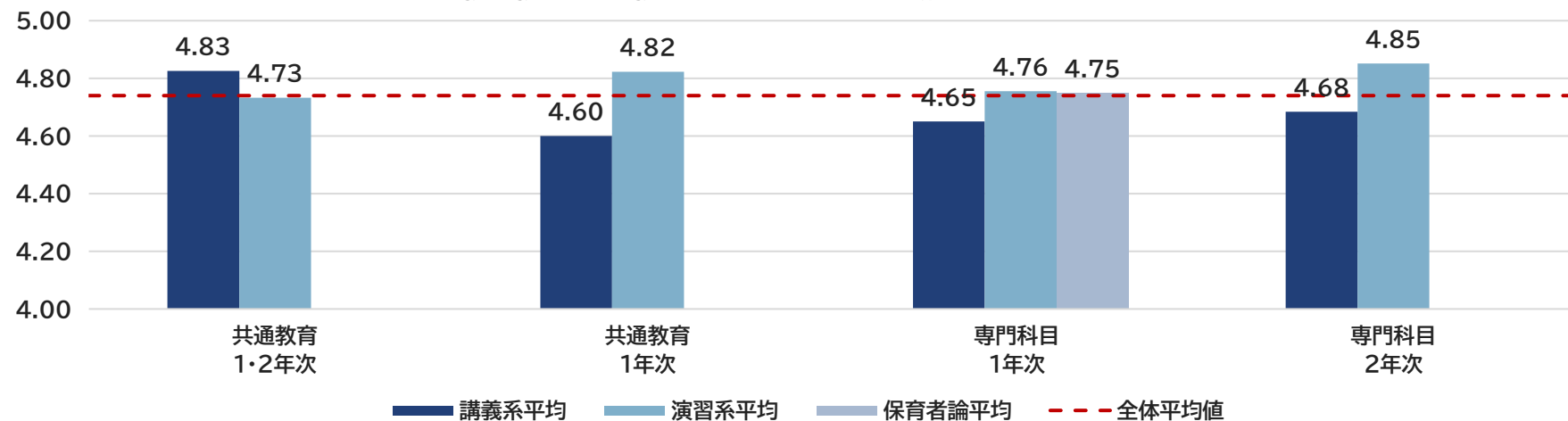
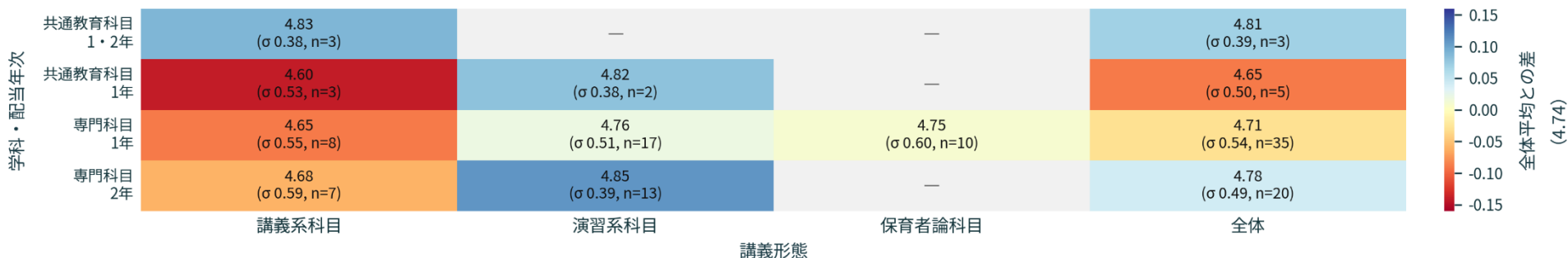


表20 教養教育/専門教育科目・配当年次・授業形態 総合的な満足度比較



まとめ

- こども学科全体の授業外学修時間は平均約49.6分で、共通教育科目より専門科目で長い傾向がみられた。一方、学修時間にはばらつきもみられ、学生による学修習慣の違いが示唆された。
- 教養教育科目の授業評価は全体として高い水準にあり、特に授業環境・授業計画が高く評価された。一方、「豊かな人間性」に対応する科目群では、興味関心や目的理解が相対的に低い傾向がみられた。
- 専門教育科目では、授業形態や学習成果目標によって評価の特徴が異なった。講義系では目的理解が高い一方、「保育の原理・目的の理解」に対応する科目群で学修経験・成果の自己評価が相対的に低かった。演習系では「表現力・創造力・感性の基礎」に対応する科目群が特に高い評価となった。
- 保育者論では、授業姿勢・興味関心を中心に高い評価が得られ、学生が意欲的に授業へ参加していることがうかがえた。一方、学修成果の実感是他項目より相対的に低く、授業環境等ではクラス間の評価の広がりも確認された。
- 保育者論における保育者養成上の学修成果では、「関心・意欲」「学び方・基本的態度」「課題認識」が高く評価された。一方、「コミュニケーション能力」は他項目より相対的に低く、10クラス間の評価の広がりも比較的大きかった。
- 総合的な授業満足度は学科全体で4.74と高い水準で、授業形態・配当年次別でも概ね4.6以上となった。授業形態別では演習系科目が比較的高く、講義系科目は全体平均をやや下回った。